

ときめき人

Tokimeki bito



戦後80年 平和への願いを 花に込める

迫町・山ノ神

藤原 優奈さん

ふじわら ゆいな
2017年生まれ

Profile

新田小3年。4人兄弟の長女として、妹や弟と一緒に体を動かして遊ぶのが大好き。保育園でのリズム遊びをきっかけに、歌を歌ったり、ピアノを弾いたりする事が好きになった。将来の夢は保育士。



全国戦没者追悼式に参列した、迫町遺族会の皆さん。

幼い頃から、見たことがない服や帽子を身に着けた人の大きな写真が自宅に飾られていた。「この人は誰なの」と祖父に聞くと、「昔、戦争で亡くなった、大おじさんだよ」と教えられたが、戦争が何なのか、その時は詳しく分らなかった――。

終戦から80年の節目となった8月15日、日本武道館で開かれた「令和7年度全国戦没者追悼式」で、藤原さんが、献花者に花を手渡す献花補助者を務めた。戦没者の甥の孫に当たることから、宮城県連合遺族会から選出された。式への参列が決まったことをきっかけに、家族に聞いたり、絵本を読んだりして、戦争について調べ始め、「人が亡くなったり、原爆という大きな爆弾が落ちたりする『戦争』って本当に嫌だと感じました」と口にする。

全国戦没者追悼式では「全世界で戦争がなく、みんなが安心して仲良く暮らせますように」と願いを込め、献花者に菊の花を渡した。国務大臣の担当に割り当てられ、最初は不安だったが「衆議院議員の小泉進次郎さんに花を渡した時に『ありがとう』と言われ、緊張がほぐれてしっかり務めることができた」と安心した表情を見せた。9月6日に開かれた迫町戦没者追悼式にも参列し、少年少女代表として追悼の言葉を述べて、白い折り鶴を捧げた。

戦争の悲しさを改めて感じ、「戦争は絶対にしてはいけないし、忘れてはいけない。ほかの国の人と仲良くしてほしい。私はほかの国の人と友達になって、一緒に遊んだり勉強したりして、仲良くしたいです」と真っすぐな目で語った。

編集後記

▼ドリーム☆キッズを初観劇。ステージ上に大人の姿はほとんどなく、子どもたちだけで物語は進みます。堂々とした演技に、響き渡る歌声、全力のダンス、そしてキラキラした目。この日のためにたくさん練習してきたことが伝わる圧巻の舞台に、感動の連続でした。皆さんもぜひ観劇を。(添田)

▼国際大会・全国大会で活躍した学生たち取材。皆さんに共通していたのは、周りに感謝していること、大会で感じたことを前向きに今後に生かそうとしていること、そして礼儀正しいことでした。皆さんのキラキラした姿に、力をもらった1カ月でした。(森田)

▼ファームステイ取材。最初は不安そうにしていた生徒の皆さんでしたが、次の日の朝には「楽しかった」と、キラキラした笑顔で話していました。別れを惜しむ姿を見て、かけがえない出会いと経験になったんだなと実感。これを機に、家族や友人との再訪をお待ちしています。(高橋)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://plus.sugumail.com/usr/tome/home>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>